

台湾の家族介護者のジェンダー構造分析

小島 克久（城西国際大学）

I. はじめに

台湾の介護制度は「長照 2.0」と呼ばれる計画に基づく税方式の制度である。一方、外国人介護労働者の雇用も多く、労働部「移工管理及運用調査」の統計によると、女性 99.3%、男性 0.7%と、ほとんどが女性である。そのごく少数ながら存在する男性の家庭外籍看護工について、台湾当局の統計から分析を行ったのが 2024 年度の研究であった。その結果として、ほとんどが女性である家庭外籍看護工の中でも処遇の男女差があり、男性が少数派ゆえに、女性と同等の処遇、不利な扱いを受けていると言いがたい。男性の外国人介護労働者が評価されている面も存在することを明らかにした。

一方、台湾でも高齢者などの介護は、家族が担う面がある。小島（2021）では、台湾の家族介護者と彼らへの支援策について地域差を含めて分析している。それによると、台湾の家族介護者の 4 割が男性であるという統計調査の結果を紹介している。しかしこの論文では、家族介護者支援策の分析が中心であり、家族介護者のジェンダー構造を詳細に触れていない。

このような問題意識のもと、本稿では台湾の家族介護者のジェンダー構造を、家族介護者について詳細な調査を行い、その結果が利用できる衛生福利部『老人状況調査』（2017 年）を中心に用いた分析を行う。

II. 使用した資料や統計

本稿での分析は、台湾の公的資料、統計をもとに行った。その主なものは、衛生福利部『老人状況調査』である¹。この調査は、1986 年に行政院主計総処が『人的資源調査』の一環として『青少年及び老人状況調査』として実施した。1989 年からは、行政院主計総処と内政部が共同で『老人状況調査』を隔年で実施してきた。1995 年からは内政部の所管となり、1996 年、2000 年、2002 年、2005 年、2009 年の 5 回の調査が実施された。この間の 2007 年 1 月に老人福祉法が改正され、調査実施のための規定が整備された。2013 年になると、政府組織再編に伴い、内政部がこの調査を訪問調査で行い、衛生福利部がデータの集計と分析を行った。現在は衛生福利部の調査となり、直近の 2022 年の調査で 13 回目となる²。

この調査は、55 歳以上の者を対象とするが、2017 年の調査から、家族介護者への調査も行われている。ただし、家族介護者の調査の結果が公表されているのは、ひとつ前の 2017 年の調査であった。そこで、本稿では 2017 年の調査を用いた。この年の調査の概要は以下のとおりである。

- 1) 目的：主に 55 歳以上の者の生活状況、健康状態、就労状況、経済・社会活動、日常生活能力・セルフケア能力、高齢期の生活プラン、介護、看護、医療、娯楽活動、学習などに関する社会福祉施策へのニーズ、そして家族介護者の介護負担などについての情報を収集すること。その情報を高

¹ この調査の詳細は、衛生福利部 web サイト (<https://dep.mohw.gov.tw/DOS/lp-5095-113.html>) 参照 (2025 年 9 月 10 日最終確認)。

² 衛生福利部「106 年老人状況調査報告」、「111 年老人状況調査報告」による。

高齢者福祉政策立案の参考資料とすること。

- 2) 調査対象地域：台湾本島、金門県、連江県
- 3) 調査対象者：①55 歳以上の者（調査地域内の世帯、高齢者福祉施設などに居住する者）、②家族介護者（65 歳以上の者を介護している者）
- 4) 調査方式：サンプリング調査
- 5) 調査時期：2017 年 11 月 10 日から 2018 年 1 月 31 日の間に実施し、2017 年 9 月 30 日現在のことを調査
- 6) 調査方法：①55 歳以上の者の調査は、調査員による訪問調査、②家族介護者には、調査員調査であるが、本人が回答する自計式調査
- 7) 調査項目：以下の通り。

① 55 歳以上の者

基本属性、家族・生活状況、健康状態、日常生活・セルフケア能力（65 歳以上のみ）、就労状況、社会活動状況、家族の介護状況、経済状況、高齢者福祉施策への認識、高齢者福祉施設等で生活している人の生活状況、高齢期の生活についての考え方など

② 家族介護者

基本属性、介護や仕事の状況、家族介護者への行政の支援に対する要望など

この統計調査の 2017 年の結果から、家族介護者の男女別に集計された統計表を整理する形で、以下について分析を行った。

- 1) 家族介護者の基本属性（年齢、配偶関係、介護サービスの利用の有無、仕事の有無など）
- 2) 要介護者との同別居
- 3) 家族介護者の仕事への影響
- 4) 家族介護者の介護年数、介護時間
- 5) ダブルケア（介護と育児の負担）
- 6) 家族介護者の健康状態
- 7) 介護サービスの利用状況

また、台湾には介護サービスを利用しないで、無職の家族が重度の要介護者を介護している場合に支給される「中低收入老人特別照顧津貼」（中低所得高齢者介護特別手当）がある。その受給状況について、高齢者本人の状況、家族介護者の状況別の統計が衛生福利部によって上記の調査とは別に作成されている。この手当の受給には、重度の要介護者を介護、家族介護者が仕事をしていない、介護サービスを利用していない、低所得であることなどの条件がある。この手当が必要な家族介護者について、男女・年齢別の統計が利用できる。この手当を受給している高齢者の家族介護者の男女別の状況もまとめる³。

³ 「中低收入老人特別照顧津貼」の詳細の例は、以下の桃園市 web サイトを参照。
https://sab.tycg.gov.tw/News_Content.aspx?n=7371&s=684791 （2025 年 9 月 11 日確認）
また、この手当の説明は小島（2014）参照。

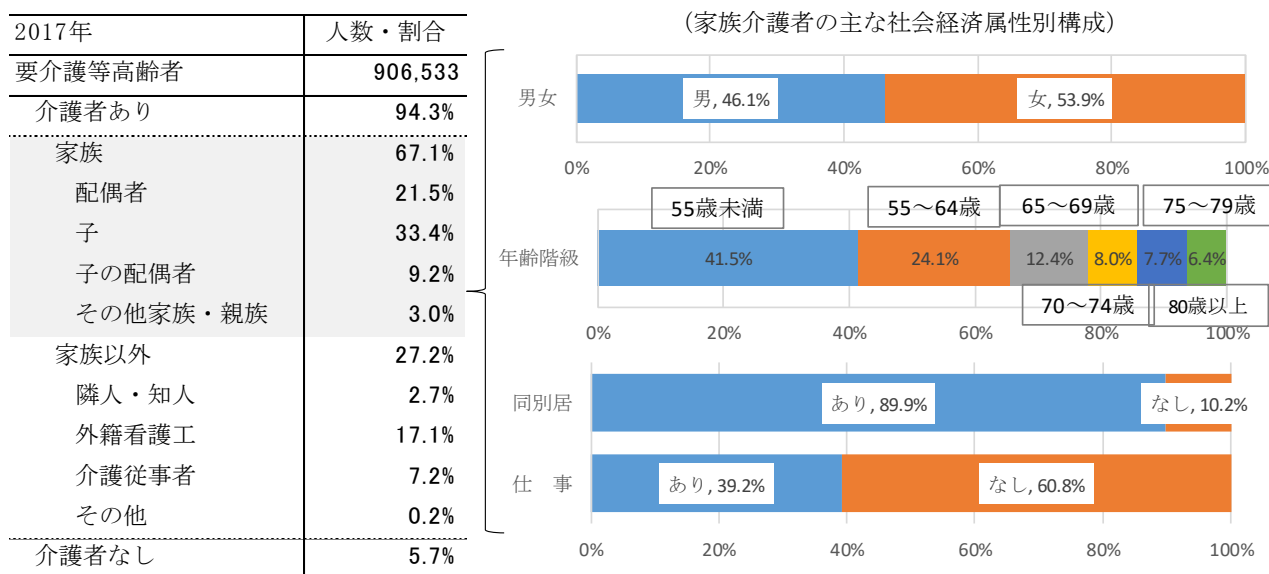
Ⅲ. 台湾の家族介護者のジェンダー構造

1. 家族介護者の男女別構成

まず、『老人状況調査』の「55歳以上の者」を対象とした調査結果から、台湾の要介護者数、主な介護者の状況が明らかにされている。これについてまとめたものが図1である。この図によると、台湾の要介護高齢者数は約90.6万人と推計されている。同じ年の台湾の高齢者人口が約326.8万人であり（内政部統計による）、高齢者の3割近くに相当する。この調査での要介護高齢者の定義が、「ADLs（衣服の着脱、食事など6項目）またはIADLs（日常的な買い物、服薬管理など9項目）のうち1つでも手助けが必要な者」と幅広くっており、これが推計結果の多さの背景となっていると考えられる。彼らの中で介護者がいる者は94.3%、家族が介護者（以下、家族介護者）である割合は67.1%（約60.8万人）である。続柄別では、配偶者が21.5%、子が33.4%、子の配偶者が9.2%であり、子が介護者である割合が最も高い。

家族介護者の男女及び年齢別構成を見ると、男女別では男性が46.1%、女性が53.9%である。女性の割合の方が高い、男性も50%を少し下回る程度で、割合そのものは高い。年齢別構成では、55歳未満が41.5%と最も高く、以下55～64歳が24.1%、65～69歳は12.4%、70～74歳は8.0%となり、年齢階級が上がるにつれて割合が低下する。特に80歳以上では6.4%にとどまる。要介護者との同別居の割合は、同居が89.9%、別居が10.2%であり、同居して介護する家族が非常に多い。仕事の有無別では、仕事ありが39.2%、仕事なしが60.8%である。

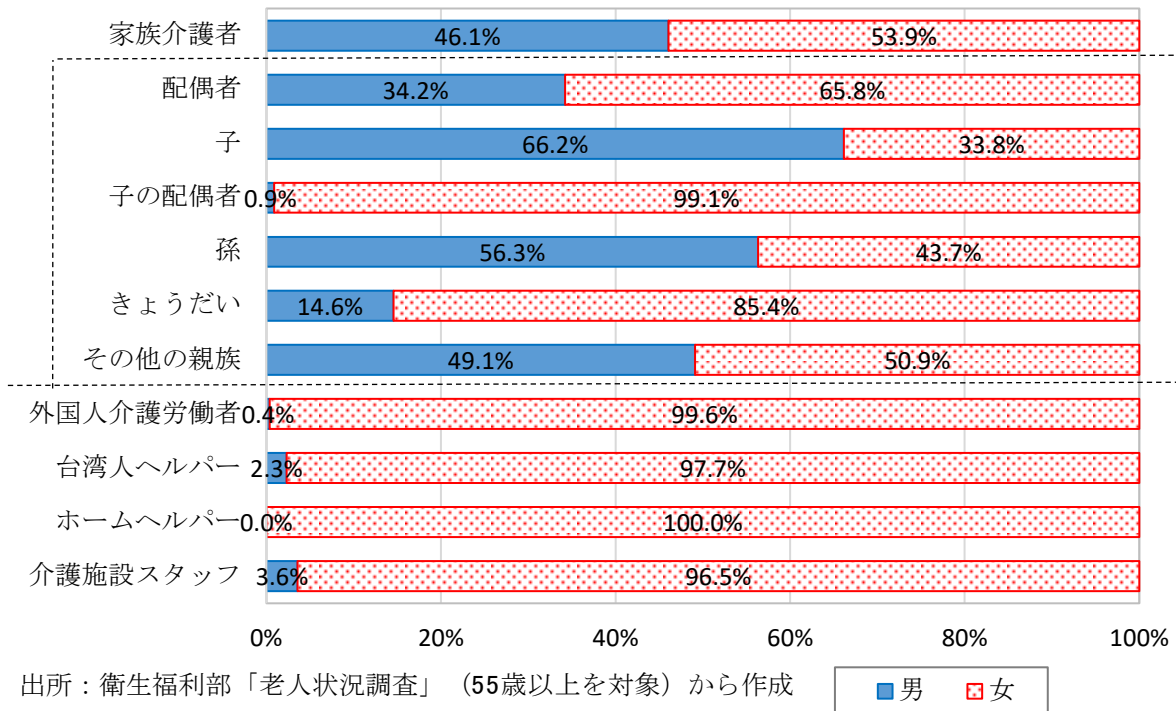
図1 台湾の家族介護者の状況（2017年）



出所：小島（2021）所収の図に加筆の上で引用。図は衛生福利部「老人状況調査」（55歳以上を対象）から作成

注：この調査でいう「要介護高齢者」とは、ADLまたはIADLの少なくとも1つで手助けが必要な者

図2 台湾の介護者の続柄（関係）別男女構成（2017年）



2. 家族介護者の続柄・男女別構成

「55歳以上」を対象とした調査では、主な介護者の続柄別の男女別集計結果が利用できる。これを整理してまとめたものが図2である。家族介護者の男女別構成比は男性が46.1%、女性が53.9%であるが、家族介護者の続柄によってその様相は大きく異なる。男性の割合が特に高いのは、家族介護者が子である場合で、男性66.2%、女性33.8%である。次いで孫では、男性56.3%、女性43.7%である。そして、配偶者では男性34.2%、女性65.8%である。逆に子の配偶者では女性が99.1%を占め、きょうだいでも女性が85.4%を占める。家族介護者といっても、家族の中でどの続柄の者が介護をするかで、男性のプレゼンスが大きく変化することがわかる。

この図では家族介護者以外、つまり介護従事者の場合の男女構成比もわかる。外国人介護労働者、台湾人ヘルパー、ホームヘルパー、介護施設スタッフの4種類の介護従事者のすべてで女性がほとんどを占めている。つまり、高齢者を家族が介護する場合は男性が行う場合もあり得るが、介護従事者は女性がほとんどというジェンダー構造になっていることが分かる。

IV. 台湾の家族介護者のジェンダー構造—家族介護者への調査から—

1. 家族介護者の基本属性

『老人状況調査』の2017年調査では、「家族介護者」に関する調査も行われている。回答者数は469人と非常に少ないが、公的統計として家族介護者に関する基礎的な情報を提供していると考えられる。この調査結果から家族介護者の基本属性が男女別にわかる形でまとめたものが表1である。まず、この表から家族介護者の男女構成を見ると、男性が39.02%、女性が60.98%である。図1よりも男性の割

合は低い、4割近くが男性である。年齢階級別の男女構成でも、45歳未満、45～64歳、65歳以上のどの年齢階級でも女性が6割を占める。

次に、家族介護者の教育程度を見ると、小学校以下では女性が66.92%を占め、中学校でも女性が60.67%を占める。高校や大学以上でも女性の割合の方が高いが、男性の割合は4割に達する。具体的には高校では41.83%、大学以上では42.55%が男性であり、教育程度が高いほど男性の家族介護者の割合が高くなる。

配偶関係では、死別または離別で男性が52.63%と半数を超える。未婚で48.53%が男性である。一方で有配偶では男性の割合は35.81%にとどまり、有配偶か否かによって家族介護者の男女構成が大きく異なる。要介護者との同別居別では、同居の場合は男性の家族介護者の割合は40.00%であるが、別居では28.21%と、要介護者との同別居でも家族介護者の男女構成が大きく異なる。要介護者との関係（続柄）別では、配偶者は男性が30.91%、女性が69.09%であるが、子は男性59.62%、女性40.38%と男性が多くなる。ただし、子の配偶者になると女性が98.72%とほとんどを占める。要介護者との関係でも家族介護者の男女構成に大きな違いがあることが分かる。この点は図2と整合的である。

表1 台湾の家族介護者の基本属性（2017年）

	人数	男女構成（%）			人数	男女構成（%）	
		男性	女性			男性	女性
総数	469	39.02	60.98				
年齢階級				要介護者との関係			
45歳未満	46	39.13	60.87	配偶者	165	30.91	69.09
45～64歳	249	39.76	60.24	子	208	59.62	40.38
65歳以上	174	37.93	62.07	子の配偶者	78	1.28	98.72
教育程度				その他	18	38.89	61.11
小学校（無就学を含む）	133	33.08	66.92	副介護者の有無			
中学校	89	39.33	60.67	あり	228	37.72	62.28
高校	153	41.83	58.17	なし	241	40.25	59.75
大学以上	94	42.55	57.45	介護サービスの利用			
配偶関係				あり	102	43.14	56.86
有配偶	363	35.81	64.19	なし	367	37.87	62.13
死別または離別	38	52.63	47.37	仕事の有無			
未婚	68	48.53	51.47	仕事をしていない	320	33.44	66.56
要介護者との同別居				仕事をしている	149	51.01	48.99
同居	430	40.00	60.00	フルタイム	118	50.85	49.15
別居	39	28.21	71.79	パートタイム	31	51.61	48.39

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

そして、副介護者の有無別でも男女構成の違いがみられる。副介護者がいる場合は、男性37.72%、女性62.28%であるのに対して、副介護者がいない場合は男性40.25%、女性59.75%となり、副介護者がいない場合で男性介護者の割合が少し高くなる。介護サービスの利用の有無では、利用ありの場合は男性43.14%、女性56.86%であるの対して、利用なしの場合は男性37.87%、女性62.13%と介護サー

ビス利用ありの場合で男性介護者の割合が少し高くなる。

最後に仕事の有無別でみると、仕事なしの場合は男性 33.44%、女性 66.56%である一方、仕事ありの場合は男性 51.01%、女性 48.99%と、仕事がある場合の方が男性介護者の割合は高い。

このように、家族介護者の基本属性別にみると、教育程度が高校以上、有配偶でない、要介護者と同居している、要介護者の子である、副介護者がいない、介護サービスを利用している、仕事をしている場合で、男性介護者の割合が高く出る傾向がある。

2. 要介護者との同別居

表1から要介護者との同別居別でみると、同居の場合で男性の家族介護者の割合が40.00%と高めに出ることが分かった。それでは、家族介護者の男女別で、要介護者との同別居、別居している場合の距離はどのようになっているのだろうか。表2はその状況をまとめたものである。これを見ると、同居は男性で93.99%、女性で90.21%を占め、家族介護者は約9割が同居の家族を介護しているが、男性の方が3%程度高い。別居の場合、要介護者の自宅まで10分以内が男性で4.92%、女性で7.69%、1時間以内が男性で0.55%、女性で1.05%、1時間以上で男性0.55%、女性1.05%と、どの距離でも女性の割合の方が高い。つまり、家族介護者の同別居別では、男女とも9割程度が同居であるが、女性で別居者による介護が多いことが分かる。

表2 台湾の家族介護者と要介護者の同別居（2017年）

	総数	同居 (%)	別居 (%)	要介護者の自宅からの所要時間(%)		
				10分以内	1時間以内	1時間以上
総数	469	91.68	8.31	6.61	0.85	0.85
男性	183	93.99	6.02	4.92	0.55	0.55
女性	286	90.21	9.79	7.69	1.05	1.05

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

3. 仕事への影響

家族介護者の仕事への影響は表3と表4のとおりである。まず、表3は仕事への影響の有無と、影響の内容である。これを見

ると、仕事への「影響あり」の割合は男性34.21%、女性30.14%で、3割程度の家族介護者に仕事への影響があることがわかる。男性で4%ほど高い。その内容を見ると、「労働時間を減らした」

表3 台湾の家族介護者の仕事への影響（2017年）

	総数 (人数)	仕事への影響の有無 (%)					
		影響なし	影響あり	労働時間を減らした	休暇や介護休業を取得した	時間が柔軟な働き方をした	その他
総数	149	67.79	32.21	17.45	10.07	18.12	2.01
男性	76	65.79	34.21	21.05	10.53	17.11	1.32
女性	73	69.86	30.14	13.70	9.59	19.18	2.74

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

減らした」は男性で 21.05%、女性で 13.70%、「休暇や介護休業を取得した」は男性で 10.53%、女性で 9.59%と男性の方が高い。「時間が柔軟な働き方をした」は男性で 17.11%、女性で 19.18%、「その他」は男性で 1.32%、女性で 2.74%と女性で高い。介護による仕事への影響は男性で少し多くみられるが、影響の内容は、働く時間や休業の利用という影響は男性で多く、柔軟な働き方は女性で多いという傾向がみられる。

表4 台湾の家族介護者の離職の有無
(2017年)

	総数 (人数)	介護離職有無 (%)	
		あり	なし
総数	193	35.23	64.77
男性	86	24.42	75.58
女性	107	43.93	56.07

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

次に表 4 は、介護による仕事への影響としての離職の有無である。これを見ると、「介護離職あり」は男性で 24.42%、女性で 43.93%と女性で非常に高い。介護離職という影響は女性の方が影響を受けやすいが、男性でも相当な水準であることがわかる。

4. 介護負担

介護が家族介護者の仕事に影響をもたらす要因の一つが介護負担である。表 5 は介護を行っている年数（介護年数）、表 6 は 1 日の介護時間についてまとめたものである。

まず表 5 の介護年数を見ると、平均介護年数は男性で 7.93 年、女性で 7.72 年であり、男女で大きな差はないが、男性が 0.21 年長い。介護年数の分布を見ると、男女で分布の若干の違いが見られる。介護年数 1 年未満では、男性 10.93%、女性 12.59%と女性の方が少し高い。この傾向は介護年数が 3 年以上のところで見られる。具体的には、介護年数 3 年以上 5 年未満では、男性 14.75%、女性 15.03%、介護年数 5 年以上 7 年未満では、男性 13.66%、女性 16.78%、介護年数 7 年以上では男性 38.25%、女性 38.81%となっており、女性の方が若干高い。介護年数が 1 年以上 3 年未満では男性の方が若干多い。介護年数 1 年以上 2 年未満では、男性 12.57%、女性 9.09%、介護年数 2 年以上 3 年未満では、男性 9.84%、女性 7.69%となっている。

表5 台湾の家族介護者の介護年数（2017年）

	総数 (人数)	介護年数の分布 (%)						平均介護 年数
		1年未満	1年以上2 年未満	2年以上3 年未満	3年以上5 年未満	5年以上7 年未満	7年以上	
総数	469	11.94	10.45	8.53	14.93	15.57	38.59	7.80
男性	183	10.93	12.57	9.84	14.75	13.66	38.25	7.93
女性	286	12.59	9.09	7.69	15.03	16.78	38.81	7.72

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

このように、平均介護年数は約 7 年で、男性の方が若干長い。介護年数の分布では 7 年以上で男女とも最も多いが、女性が若干多い。これに加えて介護年数が 3 年以上のところや 1 年未満で女性が多い。介護年数が 1 年以上 3 年未満では男性が多い。つまり、女性で介護年数が長い傾向がみられる。

次に表 6 の 1 日の介護時間を見ると、平均介護時間は、男性で 10.55 時間、女性で 11.55 時間であり、

女性が1時間程度長い。1日の介護時間別では、2時間未満、10時間以上で女性が多い。具体的には、2時間未満で男性8.20%、女性8.74%、10時間以上で男性45.36%、女性50.35%である。2時間未満では男女の差は小さいが、10時間以上では女性の方が5%ほど高い。一方、2時間以上10時間未満では、男性の方が多くなる。例えば、2時間以上4時間未満では男性17.49%、女性16.43%、4時間以上6時間未満では男性12.57%、女性11.19%と10%を超える割合の中で、1%程度男性の方が多い。さらに、6時間以上8時間未満では男性7.10%、女性4.90%、8時間以上10時間未満では男性9.29%、女性8.39%と、割合が10%を下回る中で男性の方が高い。

このように、1日の介護時間は平均では女性の方が長い。介護時間の分布では男女とも10時間以上が最も多いが、女性の方が5%ほど多くなっている。2時間以上4時間未満で男女とも10%を上回るが、この部分は男性の方が1%程度多い。つまり、介護時間には短い人と長い人にピークがあるが、そのピークの形成の仕方に男女差が見られる。

表6 台湾の家族介護者の1日の介護時間（2017年）

	総数 (人数)	介護年数の分布 (%)						平均介護 時間
		2時間未 満	2時間以 上4時間 未満	4時間以 上6時間 未満	6時間以 上8時間 未満	8時間以 上10時間 未満	10時間以 上	
総数	469	8.53	16.84	11.73	5.76	8.74	48.40	11.06
男性	183	8.20	17.49	12.57	7.10	9.29	45.36	10.55
女性	286	8.74	16.43	11.19	4.90	8.39	50.35	11.38

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

家族介護者の負担の別の側面として、育児と介護の両方の負担（ここではダブルケアとする）がある。これも仕事への影響の背景になり得る。表7は家族介護者による3歳未満の子育ての状況を男女別にまとめたものである。これを見ると、3歳以下の子どもの保育がある家族介護者の割合は、男性で10.93%、女性で11.89%と1%を下回る水準であるが、女性の方が多い。子どもの人数の分布を見ると、男女とも1人が最も多く、男性で8.20%、女性で10.14%と女性が2%に近い水準で高い。2人は男性が2.73%、女性が1.05%であり、3人は女性のみで0.70%である。3歳未満の子どもの数の平均は男女とも0.70人となる（子どもの保育なしを含む）。つまり、介護と保育を同時に担う意味でのダブルケアはこの調査では男女とも1割程度であり、女性の方が若干多いことがわかる。

表7 台湾の家族介護者による3歳未満の子育ての状況（2017年）

	総数 (人数)	なし	あり	子ども数の分布 (%)				平均
				1人	2人	3人	4人以上	
総数	469	88.49	11.51	9.38	1.71	0.43	—	0.14
男性	183	89.07	10.93	8.20	2.73	—	—	0.14
女性	286	88.11	11.89	10.14	1.05	0.70	—	0.14

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

6. 家族介護者の健康状態

介護による家族介護者への影響の一つに、彼らの健康状態がある。表8は家族介護者の健康状態、表9は家族介護者の心身の不調の状況を男女別にまとめたものである。

まず表8から家族介護者の健康状態についてみると、男女ともに最も多いのは、「まあ良い」であり、男性で44.81%、女性で42.66%である。ただし、男性の方が2%ほど多い。「非常に良い」は男性で10.93%、女性が8.39%であり、男性が2%近く高い。「ふつう」も男性が28.42%、女性が22.03%で男性が6%ほど高い。一方、「あまり良くない」は男性で14.75%、女性が23.43%と女性が9%近く高い。そして「良くない」は男性で1.09%、女性で3.50%と、女性が2%以上高い。

このように、家族介護者の健康状態は、男女とも4割程度が「まあ良い」で最も多いが、これを含めて健康状態が「ふつう」以上に良い者は男性で多く、良くない者は女性で多い。

表8 台湾の家族介護者の健康意識（2017年）

	総数 (人数)	健康意識 (%)				
		非常に良い	まあ良い	ふつう	あまり良くない	良くない
総数	469	9.38	43.50	24.52	20.04	2.56
男性	183	10.93	44.81	28.42	14.75	1.09
女性	286	8.39	42.66	22.03	23.43	3.50

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

次に表9から家族介護者の心身の不調の状況を見ると、心身の不調が「あり」の者は、男性で34.97%、女性で47.90%と女性の方が約13%高い。具体的な心身の不調の状況別では、不眠では男性13.11%、女性21.33%、筋肉などの体の痛みでは男性13.66%、女性28.32%、抑うつでは男性4.92%、女性9.09%と女性の方が大きく上回っている。男性の方で割合が高いのは高血圧であり、男性14.21%であるのに対して、女性10.84%である。

このように、心身の不調がある者は女性で多く、具体的な不調の内容でも女性の方がこれを訴える割合が高い傾向にある。

表9 台湾の家族介護者の心身の不調の状況（2017年）

	総数 (人数)	なし(%)	あり(%)	心身の不調 (%)				
				不眠	筋肉などの体の痛み	抑うつ	高血圧	その他
総数	469	57.14	42.86	18.12	22.60	7.46	12.15	4.90
男性	183	65.03	34.97	13.11	13.66	4.92	14.21	4.37
女性	286	52.10	47.90	21.33	28.32	9.09	10.84	5.24

出所：衛生福利部「老人状況調査」（家族介護者を対象とした調査）から作成

7. 介護サービス利用

家族介護者にとって、介護サービスの利用は介護の助けになるものである。図3は家族介護者の男女

別にみた介護サービス利用の有無、図4は家族介護者の男女別にみた、具体的な介護サービスの種類別の利用の有無をまとめたものである。

まず図3から、介護サービスの利用の有無を男女別にみると、「利用なし」が男女ともに非常に多く、男性で75.96%、女性で79.72%であり、女性の方が3%以上多い。「利用あり」は男性24.04%、女性20.28%と、男性の方が3%以上多い。家族介護者の4分の3が介護サービスの利用がなく、女性でその傾向が少し顕著であることがわかる。

次に図4から、介護サービスの種類別の利用の有無を家族介護者の男女別の傾向を見てみよう。家族介護者のうち、男性の方で利用が多い介護サービスは、訪問介護、訪問看護、在宅（または地域）リハ、介護施設、介護サービス管理センター・相談サービス、家族介護者支援サービスである。訪問介護は男性で9.29%と介護サービスの中で

最も高く、女性の8.04%を1%以上上回る。訪問看護は3.83%と女性の2.10%を1.7%以上上回り、

図3 台湾の家族介護者の介護サービス利用の有無（2017年）

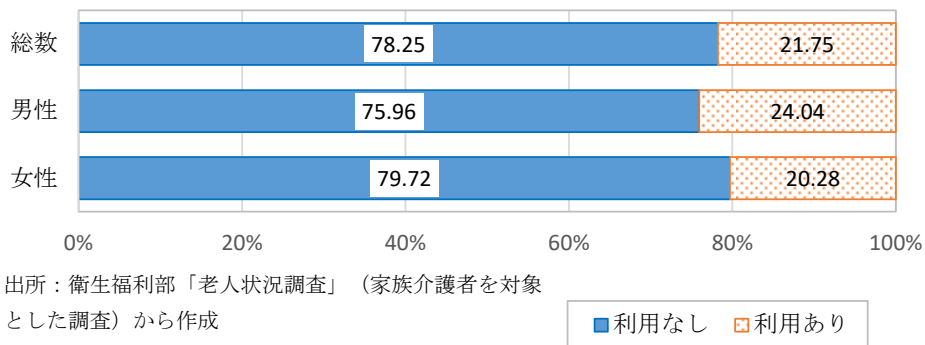
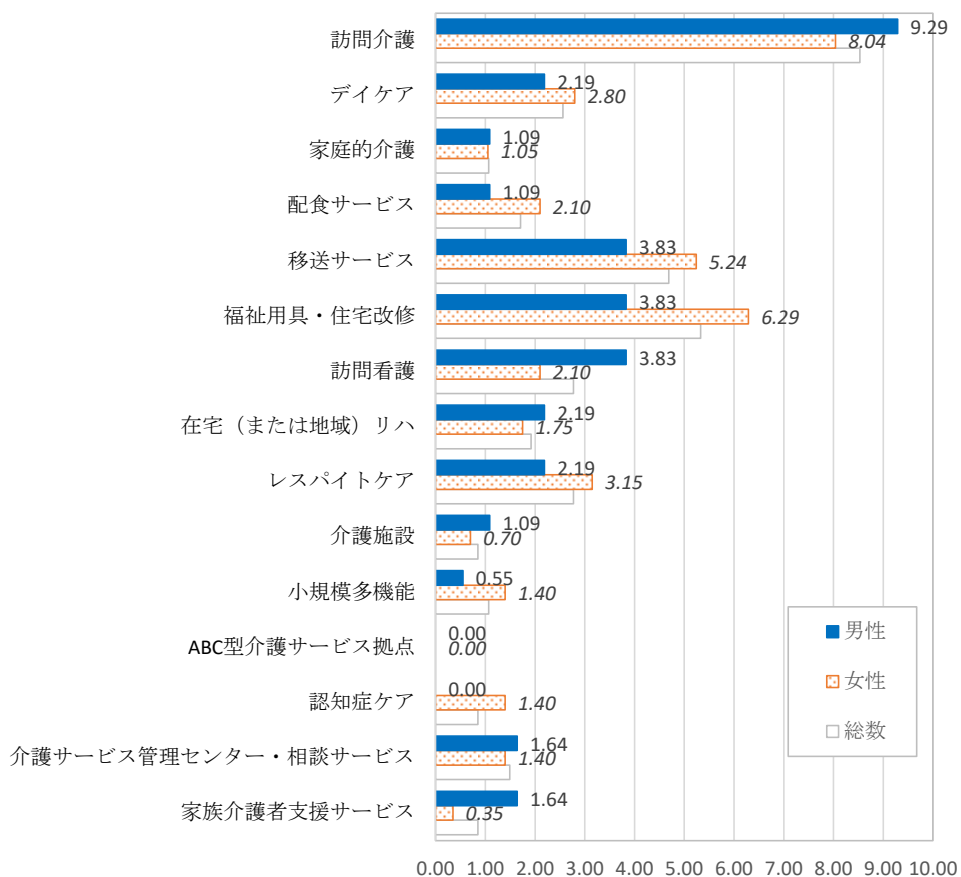


図4 台湾の家族介護者の介護サービス利用（介護サービスの種類別、2017年）



家族介護者支援サービスも 1.64%と女性の 0.35%の 5 倍近くの水準である。男性では訪問系、家族介護者支援サービスがよく利用されていることがわかる。

女性では配食、移送サービス、福祉用具・住宅改修、レスパイトケア、小規模多機能、認知症ケアが多く利用されている。特に、福祉用具・住宅改修は 6.29%と男性の 3.83%を 2%以上上回り、移送サービスも 5.24%と男性の 3.83%を 2%近く上回る。レスパイトケアは 3.15%と男性の 2.19%を 1%近く上回る他、小規模多機能も 1.40%と男性の 0.55%の 3 倍近い水準にある。女性では、配食や移送といったサービスや通所系、レスパイトケアのサービスの利用が多い。

このように、介護サービスの利用の傾向には男女差があり、男性は訪問系や相談支援サービス、女性は配食、移送、通所系、レスパイトケアの利用が多い傾向がみられるという男女差があることがわかる。

V. 台湾の家族介護者のジェンダー構造—介護特別手当受給者の統計から—

すでに述べたように台湾には「中低収入老人特別照顧津貼」（中低所得高齢者介護特別手当。以下、介護特別手当）がある。衛生福利部は、この手当の受給者数を、高齢者本人の状況、家族介護者の状況別に統計を作成している。本稿では後者に着目して統計を整理した。表 10 は介護特別手当の受給者数と家族介護者の男女別割合の時系列での動きをまとめたものである。図 5 は介護特別手当の受給者の家族介護者の男女・年齢構成を時系列でまとめたものである。

表10 台湾「中低収入老人介護特別手当」受給の家族介護者の男女構成

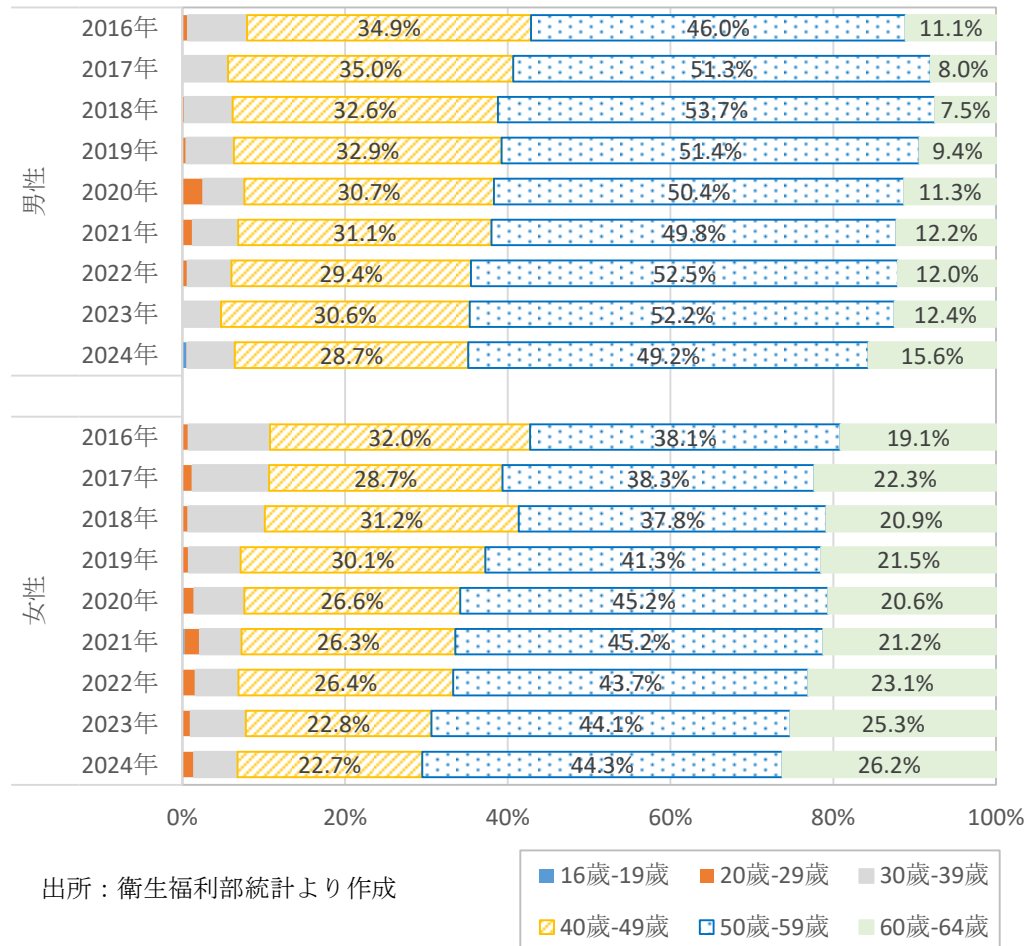
	人数	構成比 (%)	
		男性	女性
2016年	9,448	38.9%	61.1%
2017年	9,360	37.8%	62.2%
2018年	8,745	40.9%	59.1%
2019年	8,597	42.4%	57.6%
2020年	8,465	42.8%	57.2%
2021年	7,640	44.7%	55.3%
2022年	6,427	44.1%	55.9%
2023年	5,406	44.2%	55.8%
2024年	4,758	45.9%	54.1%

出所：衛生福利部統計より作成

まず表 10 を見ると、介護特別手当の受給者数は 2017 年から減少傾向にある。2017 年は 9,448 人であったが、2018 年には 9000 人を下回り、2022 年には 7000 人を下回った。2024 年は 4,758 人と 2017 年の半分程度の人数である。家族介護者の男女構成を見ると、女性が多いがその割合は低下傾向にある。2017 年には女性の加速介護者が 61.1%を占めていたが、2018 年には 59.1%と 60%を下回り、その後は 2024 年の 54.1%へと 50%台を維持しながら少しずつ低下する傾向にある。一方で男性の割合は上昇傾向にあり、2017 年には 38.9%であったが、2018 年に 40.9%になって以降、40%台を維持しており、2024 年には 45.9%にまで上昇している。

次に図 5 から介護特別手当の受給者の家族介護者の男女・年齢構成を見ると、男女とも 50～59 歳が最も多い。具体的には、男性では 46.0%から 53.7%、女性では 37.8%～45.2%で推移している。二番目に多いのは男性では 40～49 歳であり、28.7%～35.0%で推移している。女性は 2017 年から 2022 年までは 40～49 歳であり、26.3%～32.0%で推移し、2023 年以降は 60～64 歳であり、25.3%～26.2%の水準である。

図5 台湾「中低収入老人介護特別手当」受給の
家族介護者の男女・年齢構成



VI. まとめ

本稿で明らかにしたことは以下の通りである。

- ⑧ 台湾では、高齢者を介護する家族（家族介護者）のジェンダー構造は、男性が 46.1%、女性が 53.9% である。女性の割合が高いが、男性も 4 割を占める。家族介護者の続柄別に男女構成を見ると、家族介護者が子、孫である場合に男性の割合が高く、それぞれ、66.2%、56.3%である。配偶者である場合は男性の占める割合は 34.2%となる。一方、女性の割合が特に高くなるのは、子の配偶者、きょうだいの場合であり、それぞれ 99.1%、85.4%である。家族介護者の男女構成は、要介護者との関係で大きく異なる。介護従事者がほとんどが女性であることとあわせて考えると、高齢者を家族が介護する場合は男性が行う場合もあり得るが、介護従事者は女性がほとんどというジェンダー構造になっている。
- ⑨ 家族介護者の基本的な状況を男女別にみると、男女差が現れる場合がある。年齢階級別の男女構成

では、45 歳未満、45～64 歳、65 歳以上のどの年齢階級でも女性が 6 割を占める。教育程度では、教育程度が高いほど男性の家族介護者の割合が高くなる。配偶関係では、未婚、死別または離別で男性の割合が高い。要介護者との同居別では、同居の場合で男性の割合が高くなる。副介護者の有無では、副介護者がいない場合で男性介護者の割合が少し高い。介護サービスの利用の有無では、介護サービス利用ありの場合で男性の割合が少し高い。仕事の有無別では、仕事がある場合の方で男性介護者の割合が高い。

- ⑩ 家族介護者の詳細な状況でも男女差が見られる。要介護者との別居別で男女構成を見ると、男女とも 9 割程度が同居であるが、女性で別居者による介護が多い。介護による仕事への影響は、男性で少し多くみられる。その内容として、働く時間や休業の利用という影響は男性で多く、柔軟な働き方は女性で多いという傾向がみられる。介護離職の有無では、女性の方が影響を受けやすい。
- ⑪ 介護期間と 1 日の介護時間では、平均介護年数は約 7 年で、男性の方が若干長い。介護年数の分布を見ると、介護年数が 3 年以上で女性の割合が高く、女性で介護年数が長い傾向がみられる。1 日の介護時間では、平均では女性の方が長く、介護時間の分布では女性の方で介護時間が長い傾向がある。介護と保育を同時に担う意味でのダブルケアはこの調査では男女とも 1 割程度であり、女性の方が若干多い。
- ⑫ 家族介護者の健康状態は、男女とも 4 割程度が「まあ良い」で最も多いが、これを含めて健康状態が「ふつう」以上に良い者は男性で多く、良くない者は女性で多い。心身の不調がある者は女性で多く、具体的な不調の内容でも女性の方がこれを訴える割合が高い傾向がある。
- ⑬ 介護サービスの利用の有無では、家族介護者の 4 分の 3 が介護サービスの利用がなく、女性でその割合が若干高い。介護サービス利用にも家族介護者の男女差があり、男性は訪問系や相談支援サービス、女性は配食、移送、通所系、レスパイトケアの利用が多いという傾向がみられる。
- ⑭ 「中低収入老人特別照顧津貼」(中低所得高齢者介護特別手当)の受給者の家族介護者の男女構成を見ると、女性が半数を超えるが、その割合は低下傾向にあり、男性の割合が上昇している。この手当の受給者の家族介護者の男女・年齢構成を見ると、男女とも 50～59 歳が最も多い。

台湾の家族介護者は、男性が 4 割ほどを占めるが、要介護者との関係でその割合は大きく変わる。介護従事者は女性が多いこととあわせて考えると、高齢者の介護を行う者のジェンダー構造は複雑であるといえる。また、家族介護者の状況は、配偶関係や教育程度といった彼ら自身に関すること、介護年数、1 日の介護時間、介護サービスの利用といった介護に関すること、仕事への影響や健康状態といった介護の影響ともいえる側面で、男女差が見られる。家族介護者支援を行う場合、要介護高齢者や家族の状況を個別に考慮して行うことが最も重要であろう。しかし、介護における課題を整理する上では、家族介護者の属性を軸に整理することも参考になる。台湾では男性の家族介護者がある程度存在するが、介護負担、介護による影響は男女とも同じではなく、必要とする介護サービスにも違いがある。介護をする家族が男性か女性かが介護の状況、支援ニーズを把握する参考になり得る。その上で個別の状況を判断することが重要であろう。

付記・謝辞

本論文は、これまでの研究成果とあわせて本研究事業の成果公表活動の一環として執筆した。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考文献

小島克久（2014）「台湾・シンガポールの介護保障」『世界の介護保障【第2版】』増田雅暢編著 法律文化社 pp.154-170.

小島克久（2021）「東アジアにおける介護者支援をめぐる状況—台湾を例に—」『社会保障研究』第6巻1号, pp.75-89. <https://doi.org/10.50870/00000220>

参照 web ページ

衛生福利部 <https://www.mohw.gov.tw>

衛生福利部（介護政策） <https://1966.gov.tw/LTC/mp-207.html>

桃園市（中低收入老人特別照顧津貼） https://sab.tycg.gov.tw/News_Content.aspx?n=7371&s=684791